

平安京右京五条三坊十四町跡現地説明会資料

2006年6月10日

遺跡名 平安京右京五条三坊十四町
所在地 京都市右京区西院日照町
調査期間 2006年4月6日～6月16日(予定)
調査面積 約800㎡
調査機関 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

はじめに

調査地は平安京右京五条三坊十四町にあたり、十四町の南西角部分に位置する。鎌倉時代に作成された『拾介抄』「右京図」によれば、平安時代後期には周辺部と共に摂関家所領の「小泉荘」の一部となっている。

周辺の調査では平安時代前期から中期にかけての建物跡が多く見つっている。また弥生時代から古墳時代の集落跡である「西京極遺跡」や「西院遺跡」にも近く、当時代の遺構の検出も想定していた。

調査の概要

調査の結果、弥生時代から室町時代の遺構を確認した。

弥生時代の遺構では、中期と後期の様々な規模の方形周溝墓が7基見つっている。いずれも墳丘部は後世に削られておりほとんど残っていない。その中でも全長19×19mの方形周溝墓は京都市内では最大級の大きさを誇る。

古墳時代の遺構では、土壇墓と考えられる遺構が1基見つっている。また3間×4間の掘立柱建物が見つっている。

平安時代の遺構では、木辻大路の内溝と高辻小路の内溝が見つっている。また平安時代前期の建物・柵列・井戸が見つっている。

平安時代以降の遺構では、鎌倉時代と室町時代の田畑を確認している。

まとめ

今回の調査では、弥生時代の方形周溝墓を多数確認できたことが最大の成果である。

調査成果をまとめると

- ・弥生時代中期と後期には墓域であった。
- ・調査地周辺には弥生時代から古墳時代にかけての集落跡の存在が確認されており、今回の調査で一帯に大規模な集落が広がっていた可能性が高くなった。

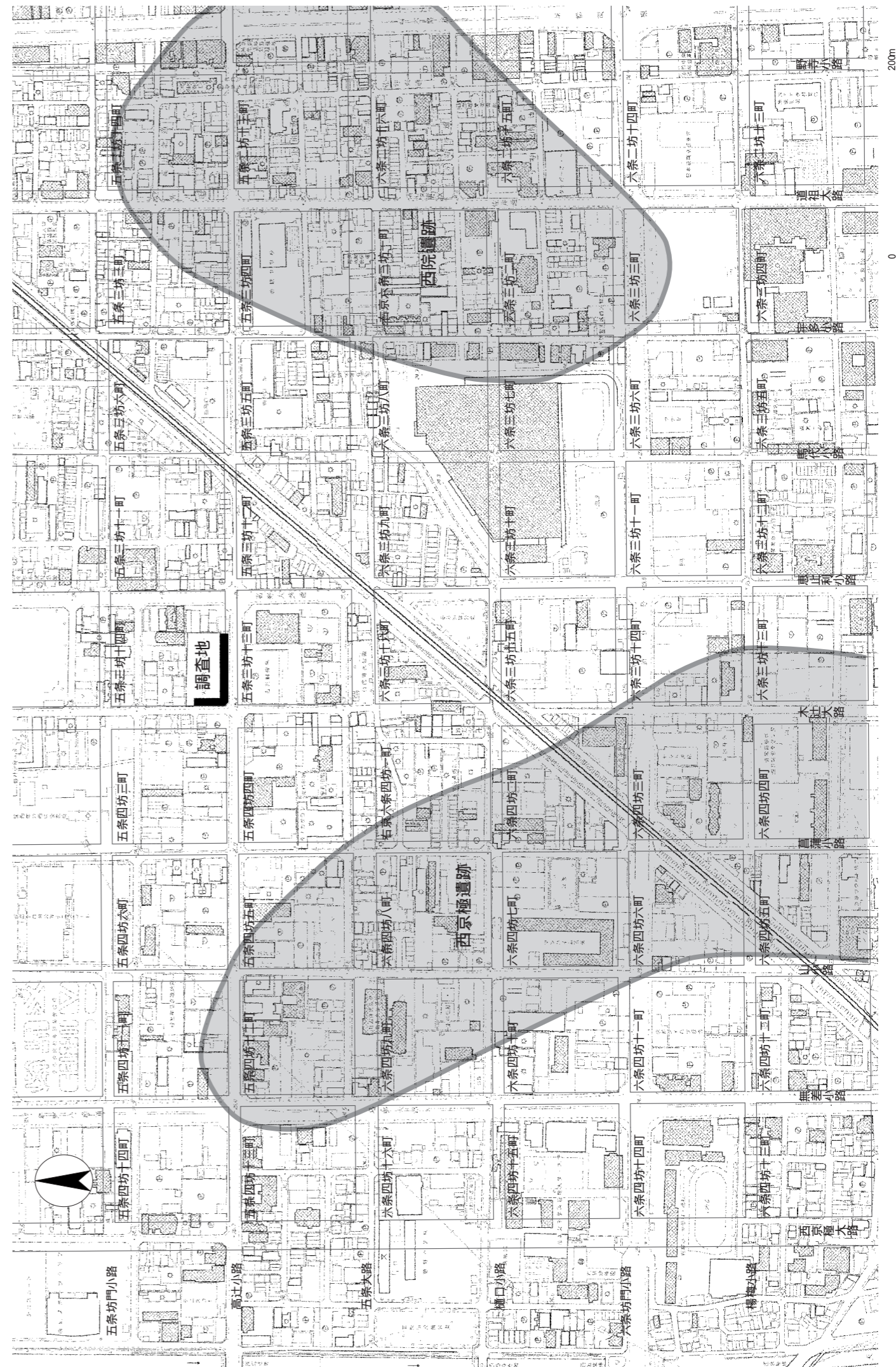


図1 調査位置図

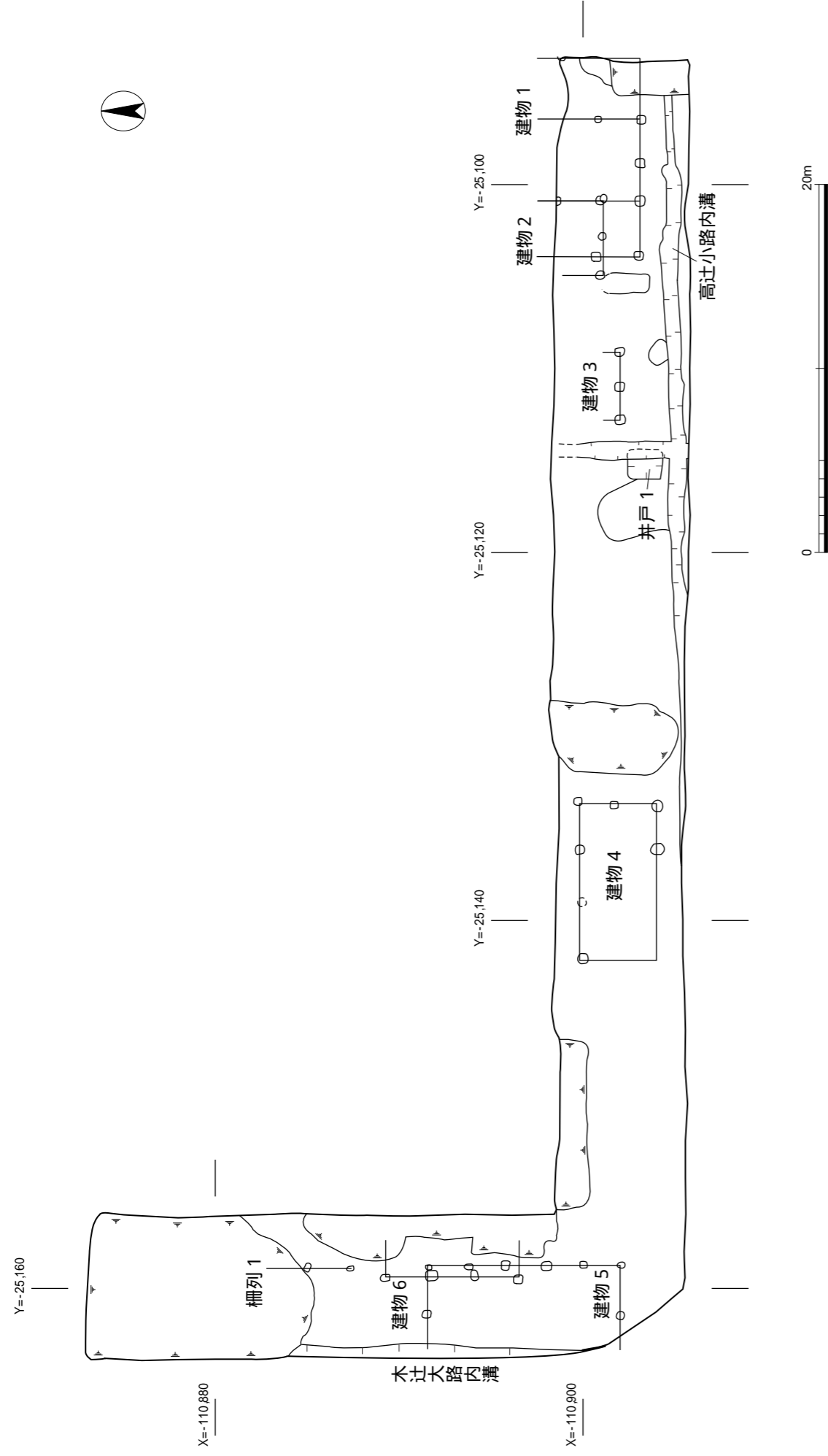


图2 第2面平面图
(平安時代)

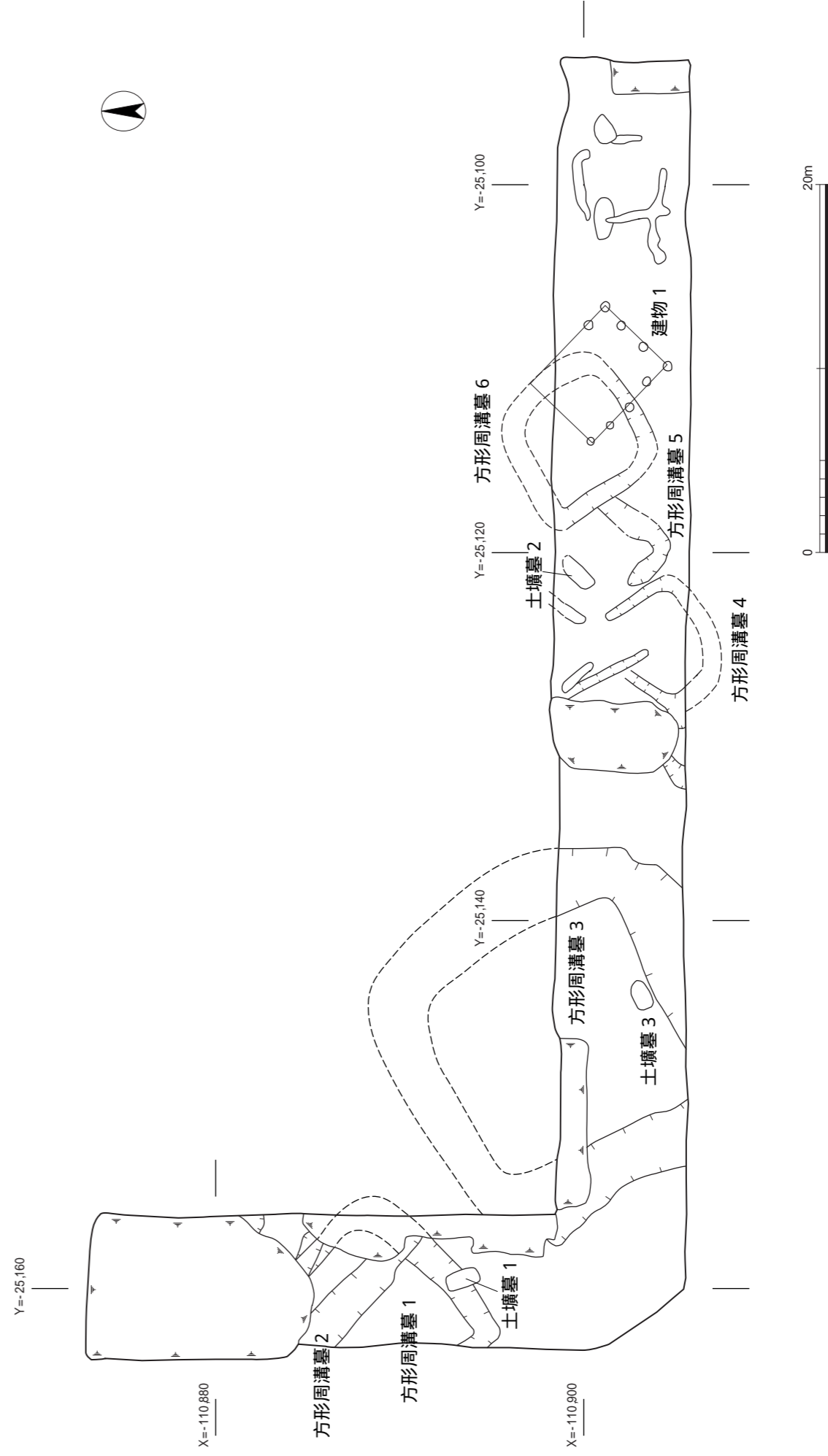


图3 第3面平面图
(弥生・古墳時代)



写真1 建物1・2、高辻小路内溝



写真3 古墳時代土壙墓1と方形周溝墓の重複



写真2 建物5・6、柵列1、方形周溝墓1・2検出状況



写真4 方形周溝墓2内出土土器